島根県立図書館所蔵「桃家資料」

― 解題と目録 ―

宇野田　尚哉

「桃家資料」解題

ここに掲載するのは、島根県立図書館所蔵「桃家資料」の解題と目録である。

桃家とは、宝暦7年（1757）に初代の源蔵（号白鹿）が召し出されてから、明治4年（1871）に廃藩を迎えるまで、5代にわたって当主が藩儒をつとめた松江藩士の家である。代々儒者を家業とした桃家には、歴代の学者の日記や著作、旧蔵書などが合計300点以上も伝わり、子孫によって大切に管理されてきた。

その「桃家資料」が島根県立図書館に寄贈されたのは1998年のことである。初代の白鹿から数えると七代目にあたる高名な歴史学者桃裕行氏（1910-1986、元東京大学史料編纂所所長、東京大学名誉教授）がお亡くなりになったあと、ご夫人のチヨ氏から寄贈されたのであった。その後島根県立図書館では、資料を順次マイクロフィルム化して紙焼きの冊子を作成し閲覧に供するなど、「桃家資料」を利用しやすくするための努力が重ねられてきたのであるが、しかし受け入れ時に作成された仮目録が現在も踏襲されているため、依然として「桃家資料」の全体像はよくわからないままとなっている。今回「桃家資料」の目録を作成することにしたのは、そのような不都合を解消し研究を一歩進めるためである。とはいえ、ここで松江藩の儒学史や藩校史に立ち入ることはできないし、桃家の歴代をはじめとする松江藩儒についても詳しく論じる機会は別に設けざるをえない。そこで、以下では、「桃家資料」の特徴をなるべく簡潔に指摘して、今後の利用の指針を示しておくこととしたい。（なお、桃チヨ氏からは2005年にも桃家歴代の軸物や印章など貴重な資料をご寄贈いただいている。ただ、第2次の受贈資料は第1次の受贈資料とかなり性格が異なるため、機会を改めて紹介することとし、本稿には含めなかった）。

「桃家資料」の目録を作成するにあたって私が依拠した分類の枠組は、凡例に示した通りである。この分類枠組は「桃家資料」の特徴を踏まえたものであるから、ここではこの分類枠組に即して説明を加えていくこととする。なお、桃家の歴代については、目録末尾の【附表①】「桃家歴代一覧」を参照されたい。あらかじめ述べておくと、おそらくは当時における活躍度とも比例して、初代白鹿・五代節山の史料が最も多く、二代西河の史料がそれに次ぎ、三代黄園・四代翠庵の史料は比較的少ない。

⑴　桃家歴代の日記について　「桃家資料」最大の特徴は、宝暦7年（1757）から明治8年（1875）に至る119年間の日記が残っているという点である。三代黄園・四代翠庵の時期を中心に、日記の残っていない年や、残っていても内容の薄い年もあるが、それでも藩儒の公私の記録を百年以上にわたって通覧できる史料群というのは稀有である。松江藩の「桃家資料」に匹敵しうるものとしては、龍野藩の「股野家資料」があるくらいであろう。

なかでもとくに重要なのは、初代白鹿の日記と五代節山の日記である。初代白鹿は、宝暦7年（1757）に召し出されてから、享和元年（1801）に没するまで、ほとんど松江を離れることなく、国許で松江藩の教学政策を担い続けた。その間の白鹿の日記はほぼ完全なかたちで遺されており、18世紀後半の松江藩を考えるうえでの重要な史料となっている。また、幕末から明治初年にかけて松江藩→松江県→島根県の学政に深く関わった五代節山の日記も完全に近いかたちで遺されており、こちらも幕末維新期の

松江を考えるうえでの重要な史料となっている。そのほか、二代西河の日記は、京都遊学中のもの、江戸滞在中のものが残っているという点で特徴があり、注目される。

⑵　学校の日記について　宝暦7年（1757）に初代白鹿が儒者として召し出された際、「新知七十石」に加えて「学校料米廿表銀十枚」が給せられたことからもわかるように（『列士録』）、白鹿の召し出しは国許で藩校を運営させることをその目的の一つとしていた。松江藩校文明館はこのようにして宝暦8年（1758）に成立するのであるが（のち天明4年に明教館と改称）、実のところ、この文明館（明教館）は、文久3年（1863）に文武の教場が移転・統合されて文武館が成立するまで、桃氏の居宅に隣接していた。すなわち、松江藩校文明館（明教館）は、文武館が成立するまでは、桃家の私塾としての性格もあわせもつ家塾型藩校だったのである。そのため、文明館・明教館の時代には、桃家の「公私日記」の「公」的部分が学校の日記も兼ねており、それとは別に学校の日記が書かれるということはなかった。

しかし、文久3年（1863）に文武の教場が移転・統合されて文武館が成立し、さらに慶応元年（1865）に文武館が再編されて修道館が成立すると、桃家の私塾という性格は失われるから、独立したかたちの学校の日記が必要になってくる。松江藩校自体は宝暦8年（1758）に成立するにもかかわらず「桃家資料」に含まれる学校の日記が慶応2年（1866）から明治4年（1871）までに限られるのは、以上のような理由による。下限が明治4年であるのは、この年の廃藩置県により藩校が存立の基盤を失うからであることは言うまでもない（旧松江藩校修道館の閉校は明治5年4月）。なお、学校の日記は記録者を明記していない場合が多いが、この時期には桃節山が修道館儒学助教（慶応元年～）、儒学教授（明治元年～）、皇学儒学教授（明治2年～）をつとめており、いずれも節山自身か節山に近い人物の手に成ったと考えて間違いなかろう。

「桃家資料」に含まれる学校の日記は、さきほど述べたような理由で慶応2年から明治4年までに限られてはいるが、これを同時期の節山の日記などとあわせて分析していくなら、松江藩校は幕末維新期にいかに再編され、いかに廃藩置県を迎えたのか、という興味深い問題へのアプローチが可能になるはずである。

⑶　松江藩歴代藩主の年譜などについて　藩儒にとって、藩主の系図を作成したり年譜を編纂したりする仕事は、公務の重要な一環であった。「桃家資料」には、松江藩および支藩広瀬藩の歴代藩主の系図や年譜の草稿が含まれているだけでなく、年譜編纂の手順をうかがわせる史料（たとえば2-2-4「御年譜可載品書抜心得」）なども含まれていて興味深い。

⑷　桃家歴代の著作について　当然のことながら、「桃家資料」には、桃家歴代の学者たちの著作も含まれている。なかでも注目されるのは、初代白鹿、二代西河、五代節山の著作である。

初代白鹿は、寛保3年（1743）年に22歳で江戸の林家塾に入門してから、宝暦7年（1757）に36歳で松江藩に召し抱えられて松江に移住するまで、林家塾を中心に江戸で活動した。白鹿は、徂徠学が大流行していた18世紀中頃の江戸で林家の塾に入門し、そこで思想を形成するとともに、人的な関係も築いたのである。したがって、白鹿は、思想史的に見ると、18世紀中頃の林家塾の学風を体現する人物の一人であるということになる。

ここで重要なのは、18世紀中頃の林家塾の学者たちのなかには、諸藩に召し抱えられるなどして社会的地位を得ていった者は少なくないものの、思想性の高い著作を遺すなどして思想史上に記憶されている者はほとんどいない、という点である。18世紀中頃の林家塾の学風を明らかにしておくことは、18世紀末の寛政異学の禁を歴史的に位置づけるうえでもぜひ必要なのであるが、しかし史料的な制約が思いのほか大きいのである。「桃家資料」に含まれる白鹿の著作が重要なのは、それがこの欠を補いうるものだからである。白鹿の経学上の主著である『大学独断』や『中庸管窺』に検討を加えて18世

紀中頃の林家塾の学風を明らかにするという作業がまずは必要であろうし、さらにはそれ以外の著作についても広い視野に立って検討を進めていくことが必要であろう。

二代西河は、遺された著作から判断するかぎり、初代白鹿よりもはるかに強い関心を現実政治に対して抱いていたようである。二代西河と彼の著作については、当該期の藩政改革の動きなどとも関係づけながらその位置づけを考えていく必要がある。

⑸　桃節山と幕末維新期の学制改革関係史料について　桃節山は、天保3年（1832）に藩医杉貞庵の次男として生まれ、嘉永2年（1849）18歳のときに桃家第四代翠庵の養子となった。その後嘉永7年（1854）には藩主の儒学御相手を命ぜられ、同年から安政4年（1857）にかけては江戸に滞在することになるが、節山はその間に昌平黌に入門し、佐藤一斎らに学んでいる。桃家旧蔵書中の佐藤一斎の著作（5-2-21「孟子欄外書」など）はこのとき系統的に筆写されたものであり、また節山の著作のなかに安井息軒の添削を受けたもの（3-5-2「鄙稿」）などがあるのも彼が昌平黌とこのような関係を結んでいたからである。松江に戻ったあと、節山は、文久2年（1862）以後さかんに上書を提出している（3-5-12「贅言」）。そのようななか、慶応元年（1865）には修道館儒学助教、明治元年（1868）には儒学教授、明治2年（1869）には皇学儒学教授に任ぜられる一方、慶応元年には藩命により九州地方へ学事の視察に赴き（1-5-8「西遊日記」、3-5-20「肥後見聞録」）、明治4・5年（1871・72）には郷校取調のため巡郷調査を行い（1-5-14「郷校取調巡郷日記十五」、3-5-23「巡郡稿」）、明治7年（1874）には第十九中学区担当一等巡回教師として学区内を巡回するなど（1-5-15「第十九中学区巡回日記」）、この時期の学政に深く関わっている。「4　維新後の松江藩・松江県・島根県の学制改革関係史料等」は、節山がこのような立場にあったことにより「桃家資料」に含まれることになった史料である。

⑹　桃家旧蔵書　「5桃家旧蔵書」のうち、松江藩と関わって重要そうな史料を挙げておくと、5-1-3「明和三戌八月治郷公御初入之節宗衍公より諫書写」、5-1-4「晏子春秋」、5-1-5「秘書」、5-1-6「上書写」、5-1-7「内用留」、5-1-24「出雲金石文集」などであろうか。松江藩の文脈を離れていうと、桃白鹿がまだ江戸にいた頃に入手したのではないかと思われる5-2-5「［兼日題併唐話］」（享保9年に開かれた漢詩・唐話の会の記録）が興味を引く。また、桃家の学者による筆写本について見てみると、西河が松平定信の著作を筆写している点、節山が佐藤一斎の著作を系統的に筆写している点が特徴的である。写本・版本を通じて言えることは、徂徠学系の著作の比率が高いということであるが、五代にわたって続いた藩儒の家の所蔵する版本がこれほど少なかったとは考えられず、いずれかの時点で蔵書の整理がなされたものと思われ、松江藩儒桃家の蔵書の本来の構成は不明なままであると言わざるをえない。

以上、「桃家資料」の特徴や意義について簡単に述べてきたが、最後に「桃家資料」に基づく研究の現状についても触れておきたい。かつての所蔵者桃裕行氏が研究者の利用に積極的に供してこられたこともあり、「桃家資料」に基づく研究には、すでに一定の蓄積がある。その代表的なものを挙げれば、石川謙『日本学校史の研究』（小学館、1960年。とくに「近世の学校　第四　御城講釈と家塾教育との発展的総合体としての藩学―松江藩の修道館（明教館）に即して見る―」の部分）と、佐野正巳『松江藩学芸史の研究』（明治書院、1981年、とくに第3章「桃白鹿」・第5章「桃西河」）の2点ということになろう。また、本目録末尾の【附表②】「「桃家資料」翻刻一覧」に見られるように、とくに磯辺武雄によって、「桃家資料」の翻刻紹介が精力的に進められている。この目録の発行を契機として、「桃家資料」に基づく研究がますます盛んになることを期待したい。

この目録を作成する過程では、島根県立図書館郷土資料室の方々、松江市教育委員会文化財課史料編纂室の内田文恵さん・北村久美子さん、史料調査の初期の段階で協力してくれた神戸大学大学院の学生諸君に、たいへんお世話になった。記して感謝したい。

「桃家資料」目録

凡例

⑴　分類と配列:史料は次のような枠組で分類し、おおむね年代順に配列した。ただし、年代順に配列するとかえってわかりにくくなる場合には、内容などに即して配列した。たとえば、桃白鹿の著作は、四書関係→五経関係→諸子関係…といったかたちで配列してある。

１桃家歴代の日記・学校の日記等
　１初代白鹿（源蔵、1722 ～ 1801）の日記
　２二代西河（義三郎、1748 ～ 1810）の日記
　３三代黄園（孝太郎、1779 ～ 1817）の日記
　４四代翠庵（文之助、1806 ～ 1875）の日記
　５五代節山（文之助、好裕、1832 ～ 1875）の日記
　６学校の日記
　７学校関係史料（日記以外）
２松江藩歴代藩主年譜等
　１松江藩歴代藩主年譜
　２松江藩歴代藩主年譜編纂関係史料
　３支藩広瀬藩歴代藩主年譜草稿
　４松江藩松平家関係史料
３桃家歴代の著作等
　１白鹿の著作等
　２西河の著作等
　３黄園の著作等
　４翠庵の著作等
　５節山の著作等
　６著者の判然としない史料
　７桃家の記録等
　８書簡等
４維新後の松江藩・松江県・島根県の学制改革関係史料等
　１維新後の学制関係史料（松江藩以外）
　２明治4年の松江藩（→7月14日松江県→11月15日島根県）の学制改革に関係する史料等
　３学制公布（明治5年8月5日）以後の島根県の学制改革に関係する史料等
　４その他
５桃家旧蔵書
　１松江藩と関係の深い史料
　２写本
　３版本
　４近代活字本

以下、本目録の分類・配列について、３点注記しておく。

①「３桃家歴代の著作等」には、私の推定に基づいてここに配列した史料も含まれる。ただし、私の推定に基づいてここに配列した場合は、そのことがわかるように備考欄に注記しておいた。

②「３桃家歴代の著作等」のうち、史料名に＊がついているものは、桃家歴代の著作ではないがそこに配列し

ておいたほうがわかりやすいだろうと判断してあえてそこに配列した史料である。＊がついている史料の著者名は備考欄に補ってある。

③　著者不明の写本史料の場合、桃家の学者の稿本と見るべきか、他者の著作の写本と見るべきか、迷う場合が少なくなった。そこで、迷った場合は次のような原則に従って処理した。⒜抜書・雑記の類は桃家の学者の手稿本と見て「３桃家歴代の著作等」の「６著者の判然としない史料」に配列した。一方、⒝まとまった内容の写本史料は一応他者の著作の写本と見て「５桃家旧蔵書」の「１松江藩と関係の深い史料」に配列したうえで、桃家の学者の著作である可能性もあることを備考欄に注記した。

⑵　整理番号：たとえば、「１桃家歴代の日記等」のうちの「１初代白鹿（源蔵、1722 ～ 1801）の日記」の最初の史料「１要記第壹」であれば 1-1-1 とするかたちで、整理番号をつけた。この目録中で他の史料に言及する場合は、この整理番号による。ただし、島根県立図書館での史料の管理は後述する史料番号に基づいて行われているので注意されたい。

⑶　史料名：史料名は、原則として内題によることとし、内題によることができない場合は外題によった。内題にも外題にもよることができない場合は、［ ］で括って新たに史料名を付した。

⑷　巻冊：「巻冊」の項には、巻数・冊数を記した。ただし、不分巻の史料についてはたんに冊数のみを記した。

⑸　刊・写の別など：１・２・４に分類した史料は、備考欄に注記した例外を除き、すべて手書きの史料なので、１・２・４についてはこの欄は設けなかった。３についてはこの欄を設け、稿本（著者の自筆稿本）・写本（著者以外の人物による筆写本）・版本（近世の整版本）・近世活字本・近代活字本を区別した。５では、作表の都合上、「刊・写の別など」の情報は「巻冊」欄に統合してある。なお、稿本と写本の別は、判別しがたい場合も少なくなく、必ずしも厳密ではないことをお含みおきいただきたい。

⑹　著者：桃家の学者については、代表的な通称と代表的な号（初代の場合であれば源蔵と白鹿）の両方を併用した。松江藩士としての名前と儒学者としての名前の両方に配慮する必要があると考えたからである。その他の著者については、最も広く知られていると考えられる名前を用いた（たとえば物茂卿ではなく荻生徂徠とするなど）。

⑺　期間／年齢：１については、日記の期間と、そのときの著者の年齢（数え年）を記した。

⑻　史料番号／フィルム番号／紙焼製本番号：史料番号は、島根県立図書館が「桃家資料」を受け入れる際に付した番号であり、島根県立図書館では「桃家資料」はこの番号に基づいて管理されている。また、すでにマイクロフィルム化されている史料、紙焼きの冊子が作成されている史料については、フィルム番号・紙焼製本番号も記した。

⑼　備考：備考欄には、参考になると思われる情報をなるべく簡潔に書き込んだ。ただし、どういう情報をどの程度書き込むかについて厳密に方針を定めて作業をしたわけではないので、史料によって情報の精粗にかなりの差が生じている。なお、「備考」欄に「翻刻あり」とあるものについては、目録末尾の【附表②】「「桃家資料」翻刻一覧」を参照していただきたい。

整理番号	史料名	巻冊	期間	著者	年齢	史料番号	フィルム番号	紙焼製本番号	備考
1 桃家歴代の日記・学校の日記等									
1 初代白鹿（源蔵，1722～1801）の日記									
1	要記第壹	1冊	宝暦7(1757).10.7～明和2(1765).11.21	桃源蔵	36～44	135	1	46	表紙朱書「第一」。翻刻あり。
2	雑記	1冊	宝暦7(1757).10.7～宝暦7(1757).10.9	桃源蔵	36	149	1	48	墨付3丁。
3	[雑記]	1冊	宝暦8(1758).5.14～宝暦8(1758).6.7	桃源蔵	37	248	24	42	墨付2丁。
4	宝暦十二年壬午日記	1冊	宝暦12(1762).1.2～宝暦12(1762).12.28	桃源蔵	41	178	1	48	8月25日以降は漢文体。
5	公記	1冊	明和3(1766).1.10～明和6(1769).6.2	桃源蔵	45～48	66	1	46	表紙朱書「第二」。翻刻あり。
6	要記	1冊	明和6(1769).11.13～明和8(1771).12.28	桃源蔵	48～50	31(1)	1	46	表紙朱書「第三」。翻刻あり。
7	要記	1冊	明和9(1772).1.2～安永2(1773).12.24	桃源蔵	51～52	31(2)	1	46	表紙朱書「第四」。
8	要記	1冊	安永3(1774).1.2～安永4(1775).閏12.14	桃源蔵	53～54	229	13	11	表紙朱書「第五」。翻刻あり。
9	公用簿	1冊	安永5(1776).1.2～天明1(1781).12.28	桃源蔵	55～60	71	1	46	表紙朱書「第六」。
10	公私要事	1冊	天明2(1782).1.2～天明4(1784).12.25	桃源蔵	61～63	62	1	47	表紙朱書「第七」。
11	公私要事	1冊	天明5(1785).1.1～天明8(1788).12.21	桃源蔵	64～67	65	1	47	表紙朱書「第八」。
12	公私要事	1冊	天明9(1789).1.1～寛政4(1792).12.28	桃源蔵	68～71	69	1	47	表紙朱書「第九」。
13	桃家公私要録	1冊	寛政5(1793).1.1～寛政7(1795).12.28	桃源蔵	72～74	78	1	47	表紙朱書「第十」。
14	源蔵要記	1冊	寛政5(1793).2.3～文化12(1815).4.6	桃源蔵	72～	192	22	37	他の日記には簡略にしか記されていない事柄の関係資料が収められているなど，他の日記とは性格を異にする。三代黄園の時期まで書き継がれている点にも注意を要する。
15	公私要録	1冊	寛政8(1796).1.1～寛政9(1797).12.18	桃源蔵	75～76	58	1	47	表紙朱書「第十一」。
16	公私要録	1冊	寛政10(1798).1.1～寛政11(1799).12.23	桃源蔵	77～78	67	1	48	表紙朱書「第十二」。
17	公私要録	1冊	寛政12(1800).1.8～寛政12(1800).12.6	桃源蔵	79	57	1	48	表紙朱書「第十三」。
18	公私要録	1冊	寛政13(1801).1.1～享和3(1803).12.18	桃源蔵 桃義三郎	80 54～56	76	1	48	表紙朱書「第十四」。享和元(1801).8.19源蔵没。同年7月18日条より義三郎の筆跡。
2 二代西河（義三郎，1748～1810）の日記									
1	負笈日歴	1冊	安永3(1774).3.20～安永4(1775).7.21	桃義三郎	27～28	89	1	49	遊学時の漢文日記。翻刻あり。
2	東都客中公用簿	1冊	安永9(1780).5.26～天明3(1783).1.19	桃義三郎	33～36	73	1	49	
3	東都祗役要記	1冊	寛政2(1790).2.1～寛政4(1792).5.7	桃義三郎	43～45	32	2	49	3-2-15『東遊行装』参照。翻刻あり。
4	公私要録	1冊	享和4(1804).1.3～文化7(1810).11.20	桃義三郎 桃孝太郎	57～63 32	42	2	50	表紙朱書「第十五」。文化7(1810).8.19義三郎没。8月より孝太郎。
3 三代黄園（孝太郎，1779～1817）の日記									
1	[公私要録]	1冊	文化7(1810).8.20～文化7(1810).11.20	桃孝太郎	32	247	24	42	墨付6丁。1-2-4の孝太郎執筆部分の写し。
2	公私要録	1冊	文化8(1811).1.7～文化8(1811).12.16	桃孝太郎	33	75	2	50	墨付2丁。
4 四代翠庵（文之助，1806～1875）の日記									
1	庚辰行暦	1冊	文政3(1820).4.14～文政3(1820).7.28	[桃文之助]	15	204	1	49	松江-江戸間往還の日記。
2	公私要用	1冊	文政4(1821).4.17～天保5(1834).3.5	[桃文之助]	16～29	30	2	51	表紙に「列士録留之外」とあり。文書の引用を多く含む。
3	公私要録	1冊	文政12(1829).6.14～文政12(1829).12.24	桃文之助	24	68	2	51	文書の引用を多く含む。
4	公私要録	1冊	天保3(1832).1.3～天保9(1838).4.23	桃文之助	27～32	70	2	51	表紙に「在江戸中別録ニ記之」とあり。「別録」は1-4-5を指す。
5	武都公私要録	1冊	天保3(1832).4.4～天保4(1833).4.21	桃文之助	27～28	61	2	51	
6	公私要録	1冊	天保10(1839).1.1～天保13(1842).11.27	桃文之助	34～37	74	2	52	
7	公私要録	1冊	天保15(1844).5.1～嘉永1(1848).5.6	桃文之助	39～43	72	2	52	
5 五代節山（文之助，好裕，1832～1875）の日記									

1	公私要記一	1冊	天保3(1832).11.晦～安政4(1857).12.26	桃文之助	1～26	55	2	52	出生以来の自身の履歴および桃家の事跡を記す。狭義の日記となるのは安政4年の途中から。翻刻あり。
2	公私要記二	1冊	安政5(1858).1.5～文久1(1861).12.24	桃文之助	27～30	63	2	53	翻刻あり。
3	公私要記三	1冊	文久2(1862).1.5～文久3(1863).12.28	桃文之助	31～32	77	2～3	54	翻刻あり。
4	公私要記四	1冊	文久4(1864).1.2～元治2(1865).1.16	桃文之助	33	64	3	55	
5	出張日記五	1冊	元治1(1864).8.19～元治1(1864).9.20	桃文之助	33	106(1)	3	55	
6	後出張日記六	1冊	元治1(1864).11.15～元治2(1865).1.22	桃文之助	33～34	107	3	55	
7	公私要記七	1冊	元治2(1865).1.22～慶応1(1865).7.28	桃文之助	34	56	3	56	
8	西遊日記八	1冊	慶応1(1865).7.17～慶応1(1865).12.15	桃文之助	34	220	13	10	翻刻あり。
9	公私要記九	1冊	慶応2(1866).1.2～慶応2(1866).12.晦	桃文之助	35	59	3	—	
10	出張日記十	1冊	慶応2(1866).6.19～慶応2(1866).8.12	桃文之助	35	106(2)	3	57	
11	公私要記十一	1冊	慶応3(1867).1.2～慶応3(1867).12.28	桃文之助	36	60	3	58	翻刻あり。
12	京役日記十三	1冊	明治1(1868).11.21～明治2(1869).1.27	桃文之助	37	18	3～4	58	「十二」は欠。
13	公私要記十四	1冊	明治2(1869).1.28～明治8(1875).1.29	桃文之助	38～43	79	4	59	表紙に「明治五年七月朔日ヨリ通称ヲ廃シテ好裕(ヨシスケ)ト称ス」とあり。
14	郷校取調巡郷日記十五	1冊	明治5(1872).1.17～明治5(1872).2.8	桃文之助	41	26	4	59	3-5-23『巡郡稿』参照。翻刻あり。
15	第十九中学区巡回日記	1冊	明治7(1874).7.15～明治7(1874).10.8	桃好裕	43	16	4	60	翻刻あり。なお，本来は1-5-14と1-5-15のあいだに『地理取調巡回日記』があったようである。磯辺武雄『公私要記一』（北樹出版，2001年）「解題」参照。
16	公私日記	1冊	明治8(1875).1.1～明治8(1875).9.5	桃好裕	44	54	4	60	明治8.11.13好裕没。
6 学校の日記									
1	慶応二年日記	1冊	慶応2(1866).2.9～慶応2(1866).8.3			213(1)	4	61	
2	教授先生御留守中日記	1冊	慶応2(1866).8.3～慶応2(1866).12.27	高木文四郎 桃文之助		213(2)	4	61	
3	[日記]	1冊	慶応3(1967).1.2～慶応3(1967).4.28			166(2)	20	30	表題なし。1丁表に「当卯年」とあり。
4	日記	1冊	慶応3(1967).5.4～慶応3(1967).12.28			212	4	62	
5	日誌	1冊	慶応3(1967).11.12～慶応3(1967).12.27			166(1)	20	30	1-6-4の抄写本。
6	助教用留	1冊	慶応3(1868).12問，慶応4(1868).1.6答	桃文之助		209	4	62	上下二段。下段は，慶応3年12月に助教高木文四郎・桃文之助が教授に提出した伺い。上段は，翌年正月6日に教授からなされた回答。日記ではないが，便宜上ここに配置しておく。
7	日記	1冊	慶応4(1868).1.1～慶応4(1868).1.11			46	5	63	表紙に「慶応四年戊辰正月／教授発程迄」とあり。
8	日記	1冊	慶応4(1868).1.11～明治1(1868).12.26			215	4	63	表紙に「慶応四年戊辰正月十一日より／日記」とあり。
9	日記	1冊	明治2(1869).1.8～明治2(1869).2.26			214	—	—	表紙に「明治二年己巳正月ヨリ二月マテ／日記」とあり。
10	儒学校日記	1冊	明治2(1869).3.3～明治2(1869).7.28			144	5	64	表紙に「明治二年己巳三月より／儒学校日記／教授・助教」とあり。翻刻あり。
11	日誌 皇漢学校	1冊	明治4(1871).1.7～明治4(1871).10.29			24	5	64	表紙に「辛未／日誌／皇漢学校」とあり。7.14廃藩置県。翻刻あり。
12	日誌 南学	1冊	明治4(1871).10.28～明治4(1871).12.28			154	5	65	表紙に「辛未十一月より／日誌／南学」とあり。翻刻あり。
7 学校関係史料（日記以外）									
1	学校要規	1冊				198	5	65	安政3年(1856)以後成立。学校の規則・記録集。
2	明教館教導条目	1冊				151	20	29	未定稿。執筆者・執筆年代不明。
3	定諧規則	1冊				254	24	43	端裏書「学館」。執筆者・執筆年代不明。

4	[修道館の儀につき上書]	1冊		桃文之助 神実可助		250	24	42	上書5通からなる。(1)執筆者・宛先・年代不明，(2)「十月 桃文之助」，宛先・年代不明，(3)「十月 桃文之助」，宛先・年代不明，(4)「十一月四日夜認 神実可助拝上 薬長先生下執事」，年代不明，(5)「十一月十一日夜認 神実可助拝上」，宛先・年代不明。
5	修道館祭神説	1冊		桃好裕		8	15	17	明治2年。修道館の祭神を素戔烏・大己貴とする理由を述べる。
6	開講式并諸調物留帳	1冊				22	16	19	明治5年正月の開講式をひかえて明治4年に作成されたもの。

整理番号	史料名	巻冊	著者	史料番号	フィルム番号	紙焼製本番号	備考
2松江藩歴代藩主年譜等							
1松江藩歴代藩主年譜							
1	出雲侍従源綱近年譜	1冊		181	12	8	外題「隆元公年譜」。第3代藩主綱近年譜。
2	出雲侍従源吉透年譜	1冊		163	12	7	外題「源林公年譜」。第4代藩主吉透年譜。
3	今公年譜	2巻2冊	桃源蔵	86	11	4	内題・外題とも「今公年譜」。明和７年閏6月まで。「今公」は第7代藩主治郷のこと。2-1-5の稿本。
4	大円公年譜	零本2冊	[桃義三郎]	41 (1～2)	10	3	「大円公」は第7代藩主治郷のこと。2-1-5の稿本。巻1・巻4に相当。
5	大円公年譜	4巻4冊	桃義三郎	41 (3～6)	10	2～3	内題・外題同じ。
6	月潭公年譜	3巻3冊	桃義三郎	202	12	9	内題・外題同じ。「月潭公」は第8代藩主斉恒のこと。
7	今公年譜稿	1束		147	12	7	史料名は包紙による。嘉永6年～安政6年の記事。第10代藩主定安の年譜草稿か？
2松江藩歴代藩主年譜編纂関係史料							
1	天隆院様御年譜凡例	1冊		161	12	7	「天隆院様」は第6代藩主宗衍。
2	天隆公年譜義訳	1冊	桃源蔵	94	11	4	「天隆公」は第6代藩主宗衍。本文冒頭に「天隆公年譜，御代代ノ御年譜，イツレモ御諱ヲ書ハナシニシテ，□□年譜ト題セルコト失礼ノ至極ニシテ，恐多事也」云々。
3	天隆公年譜法祭礼	1冊		95	11	4	墨付2丁。
4	御年譜可載品書抜心得	1冊		210	13	9	「御養子之事」「格別之御吉事」「御目見之事」「御誓詞之事」以下，全52項目。
5	御年譜ニ可書載惣目録	1冊		117	11	5	「御誕生之事」「御宮参之事」「御喰初之事」以下，全78項目。表紙裏に朱で「朱圏ハ白鹿先生ノ凡例ヲ以補入ス」とあり。
6	寛政六甲寅年御日記書抜	1冊		114	11	4	寛政6年分の藩庁の日記の抜き書き。年譜編纂の材料か？
7	寛政八丙辰年御日記書抜	1冊		43	10	3	寛政8年分の藩庁の日記の抜き書き。年譜編纂の材料か？
8	御日記抄書	1冊		140	12	6	文化6～文政3年分の藩庁の日記の抜き書き。年譜編纂の材料か？
3支藩広瀬藩歴代藩主年譜草稿							
1	近栄公御譜録草稿	1冊		138	11	6	「近栄公」は広瀬藩初代藩主松平近栄。
2	近時公御譜録草稿	1冊		164	12	7	「近時公」は広瀬藩第2代藩主松平近時。
3	近朝公御譜録草稿	1冊		115	11	5	「近朝公」は広瀬藩第3代藩主松平近朝。
4	近明公御譜録草稿	1冊		195	12	8	「近明公」は広瀬藩第4代藩主松平近明。
4松江藩松平家関係史料							
1	御家御代々諸記	1冊		158	12	7	藩祖直政から「当君宗衍公」に至るまでの略伝。最後の記事は延享2年(1745)。
2	御系図之内 越前家直政系	1冊		97	18	25	藩祖直政およびその子の略系図。表紙に「林大学頭」とあり。桃源蔵は，江戸に滞在していた宝暦10年に，林大学頭から「御系図補入」の御用筋を仰せ聞かされ，「御系図補入御改一冊」を林大学頭に提出しているので（『要記第壹』），この2-4-2はその関係の史料であろう。なお，この点については，佐野正巳『松江藩学芸史の研究』（明治書院，1981年）228～229頁参照。
3	[松平家系図]	1冊		110	11	4	藩祖直政から幕末に至るまでの系図。

整理番号	史料名	刊写の別など	巻冊	成立	史料番号	フィルム番号	紙焼製本番号	備考
3 桃家歴代の著作等								
1 白鹿の著作等								
1	大学独断	稿本	1冊	明和3年9月自序	174	6	66	『大学独断』の完成稿。序文2丁，本文28丁。
2	大学独断正文	近世活字本	1冊		186 (2)	6	66	内題「大学」，外題「大学独断正文」。正文7丁（活字本，半丁あたり18字×9行），序文なし。内題の次の行には「侍講臣桃源蔵章句」とあり。侍講用か。
3	大学独断正文	近世活字本	1冊	明和3年9月自序	186 (1)	6	66	内題「大学」，外題「大学独断正文」。正文7丁（活字本，半丁あたり18字×9行）に手書きの序文2丁を冠する。内題の次の行には「桃源蔵章句」とあり。
4	[大学独断正文]	近世活字本	1冊		272	—	—	内題「大学」，外題「大学桃白鹿章句」，正文8丁（活字本，半丁あたり16字×9行，ただし5丁目は補写），序文なし。内題の次の行には「桃源蔵章句」とあり。
5	[大学独断正文]	写本	1冊		130	7	71	明和3年8月武忠徳写。内題「大学」，外題「大学桃源蔵章句」。著者序文成立以前の写本。内題の次の行には「雲藩教授桃源蔵章句」とあり。
6	[大学独断或問・中庸管窺或問]	稿本	1冊		165 (2)	6	66	『大学独断或問』6丁・『中庸管窺或問』5丁合綴1冊。3-1-7に先行する稿本。付箋多。
7	[大学独断或問・中庸管窺或問]	稿本	1冊		165 (1)	6	66	『大学独断或問』11丁・『中庸管窺或問』7丁合綴1冊。3-1-6の完成稿。
8	[中庸管窺]	稿本	零本1冊		104	19	27	『中庸管窺』の初期稿本。内題なし，外題「中庸」。『中庸』の後半（「子曰舜其大孝也与」以下）について，諸家の説を引き，自身の按文をさしはさむ。全20丁，前半欠。
9	中庸管窺	稿本	1冊	安永9年3月自序	132 (3)	7	72	序文2丁，本文44丁。
10	中庸管窺	稿本	2冊	安永9年3月自序	51	7	72	表紙には上下とあるが内容上は不分巻。序文2丁，本文69丁。
11	中庸管窺	稿本	2冊	安永9年3月自序	132 (1・2)	6	66	表紙には乾坤とあるが内容上は不分巻。序文2丁，本文69丁。稿本の順序は，3-1-8→9→10→11。
12	論語一斑	稿本	20巻12冊		20 (1)	6～7	70～71	
13	論語一斑	写本	20巻10冊		20 (2)	7	73～74	第1分冊・第3分冊の表紙には「武忠徳写」，第4分冊の表紙には「佐忠徳写」とあり。12の本文よりものちに成立した写本。
14	孟子蠡測	稿本	1冊		87	6	69	
15	書臆	稿本	3冊		134	6	66～67	
16	読礼記	稿本	2冊	安永元年11月自序	142	6	67	第1分冊表紙には「曲礼上下」，第2分冊表紙には「内則／玉藻／明堂位／喪服小記」とあり。第1分冊冒頭の序文の末尾には「日本 安永改元冬十一月四日 雲藩桃源蔵／男忠徳 同校」とあり。第1分冊の末尾には「曲礼終／安永二年冬十一月四日」とあり。
17	[荀子遺秉]	稿本	1冊	寛政9年6月識語	194	6	68	外題には「読国語」とあるが，『国語』に関する叙述は冒頭の2丁のみで，あとは『荀子遺秉』の草稿。錯簡があるが，内容上全体の末尾にあたる部分には，次のような識語がある。「右荀子考（「考」に圏点を付し「遺秉二巻」と傍書），寛政九年丁巳夏六月二十又一日力疾卒業，時年七十六　桃源蔵子深」。
18	荀子遺秉	版本	2巻2冊	寛政10年3月自序	266	—	—	寛政12年正月(京都)葛西市郎兵衛刊。
19	荀子遺秉	版本	2巻2冊	寛政10年3月自序	275	—	—	3-1-18に同じ。ただし末尾に次のような識語あり。「右老拙所著荀子遺秉壹部貳冊，与荀子全書同謹蔵於　天倫寺。寛政庚申夏六月　明教館教授桃源蔵」。なお，5-3-5『荀子全書』のほか，3-1-23，5-3-1参照。
20	管子抄標註	近世活字本	1冊		196	6	67	内題「管子」。史料名は外題による。『管子』から「牧民」等の諸篇を抄出して活字印刷し，手書きで標註を加えたもの。
21	揚子法言増註序并凡例	稿本	1冊	寛政6年8月自序	205	6	69	『揚子法言増註』の序および凡例の草稿。全11丁。
22	揚子法言増註	版本	10巻4冊	寛政6年8月自序	268	—	—	寛政8年9月(京都)風月荘左衛門・(京都)風月善六・(京都)林伊平衛・(京都)柏屋喜兵衛刊。
23	揚子法言増註	版本	10巻4冊	寛政6年8月自序	269	—	—	3-1-22に同じ。ただし末尾に次のような識語あり。「右揚子法言増註壹部謹蔵於天倫寺。桃源蔵」。なお，3-1-19，5-3-1，5-3-5参照。
24	説苑考	稿本	1冊		131 (3)	6	69	現存最古稿本。

25	説苑考	稿本	2冊		131 (1・2)	6	68～69	3-1-26の前の段階の稿本。表紙に次のような書き込みあり。「総紙数自序共ニ凡ソ三十六枚程可有之。全一冊物也。其内今度校正訓点相済候分先ツ十二枚為登」。
26	説苑考	稿本	2巻2冊		175	6	69	最終稿本。冒頭の付箋に「自序二枚近日相達候上ニテ此所へ加江可申事」とあり。
27	説苑考	版本	2巻2冊	寛政10年11月自序	264	—	—	外題「劉向説苑考」。寛政12年9月江戸須原屋茂兵衛刊。
28	説苑考	版本	2巻2冊	寛政10年11月自序	265	—	—	外題「劉向説苑考」。3-1-27の後印本。発行印刷者大阪市青木恒三郎，製本発売所東京青山嵩山堂ほか。
29	三論披沙潛夫論・新論・中論	稿本	1冊	寛延2年正月識語	216	23	40	末尾に「寛延己巳之歳端月日　石州桃生盛手書」とあり。
30	世説新語補	稿本	零本1冊	明和2年6月	35	16	20	表紙には「明和二年乙酉六月十九日／世説新語補　三／自文学下」とあり。「三」のみ現存。語句を掲げて漢字仮名混じり文の解説を加える。全13丁。
31	世説新語補考	稿本	零本3冊		91 (1～3)	6	68	上下2巻4冊（上・下一・下二・下三）のうち，下二欠。3-1-32の稿本。
32	世説新語補考	版本	2巻2冊	宝暦11年冬自序	277	25	44	宝暦12年3月 (京都) 林九兵衛・(京都) 林権兵衛・(京都) 風月庄左衛門刊。
33	世説新語補考補遺	稿本	1冊		91 (4)	6	68	3-1-34の稿本。
34	世説新語補考補遺	版本	1冊		278	25	44	寛政3年9月 (京都) 林権兵衛・(京都) 柏屋喜兵衛・(京都) 風月庄左衛門刊。最終丁ウラに「規箴下考補遺増」を手書きで増補。その識語には，「子深先生口授曰，為世説書，以識趣而為要，此考蓋係一部之意也。松村喬識」とあり。
35	遊神亀峡記	稿本	1冊	宝暦14年3月23日撰	82	18	23	末尾に「宝暦十四年三月廿三日白鹿山樵桃源蔵撰」とあり。
36	遊神亀峡記	複製本	1冊		274	—	—	1-3-35の複製。島根県立図書館所蔵『遊神亀峡記』（貴099.5/37）と同一。
37	白鹿先生遺稿	写本	1冊		27	16	19	内題・外題とも「白鹿先生遺稿」。墨付34丁。詩のみ。
38	白鹿先生詩集	稿本	1冊		19	16	19	内題なし。外題「白鹿先生詩集」。墨付14丁。
39	白鹿先生詩抄	稿本	1冊		84	18	24	内題なし。外題「白鹿先生詩抄」。墨付11丁。
40	詩集	写本	1冊		34	16	20	内題なし。外題「詩集」。墨付27丁。分韻。作者は，白鹿・龍洲・樗斎・復軒・伯師・林臥・桐江・長山・言卿 (玄卿)。
41	白鹿先生遺稿	写本	1冊		141	19	29	外題「白鹿先生文稿雑文部」。墨付23丁。内容は，「書秘書監林先生夢韓国朴典籍詩後」，「読鳳谷先生酒徳解」，「学暇篇跋」，「適意篇後序」，「報呉山長阪君」，「与正覚院主書」，「答牧容民書」，「又」，「古河水妖」，「射富」，「留与高貞蔵」，「献双璧序」，「朝日夫子硯屏記」，「温泉紀行」，「報那波孝卿」，「復律師通公」，「赤城君矮几硯匣銘並序」。寛延元年 (1748) ～宝暦13年 (1763) の文を収める。
42	白鹿先生文稿	写本	1冊		49	17	22	園山雄写。全8丁。内容は，「孝子理兵衛伝」，「読鳳谷先生酒徳解」，「朝日夫子硯屏記」，「晩下亀峡」(詩)，「雪中送別」(詩)，「代人題孤鶴含仙桃図」，「赤城君矮几硯匣銘並序」。
43	白鹿先生韓人応対	稿本	1冊		143	12	7	延享5年 (1748) 6月4日に浅草本願寺で朝鮮通信使一行と行った唱酬の記録。全8丁。
44	桃源蔵先生高山彦助問答并名実論	稿本	1冊		160	20	30	内題なし。史料名は外題による。全15丁。桃源蔵が高山彦助の訪問をうけた際のやりとりを記す。
45	故国相朝日夫子紀功碑	稿本	1冊		105	19	27	朝日丹波の紀功碑の碑文。全16丁。翻刻あり。
46	先府君行状	稿本	1冊		119 (2)	11	5	養父東園の行状。全5丁。稿本の順番は1-3-46→47。
47	先府君行状	稿本	1冊		119 (1)	11	5	養父東園の行状。全5丁。稿本の順番は1-3-46→47。翻刻あり。
48	海野氏墓碣 [ほか]	稿本	1冊		145	19	29	内容は，「海野氏墓碣」・「孝子理兵衛伝」・「祝氏墓碣」・「器之文」・「覚夢居士祭文」・「富永氏碣」・「国府氏之碣」・「近藤氏墓碣」・「今村氏之墓碣」。
49	＊覚夢居士墓碣	写本	1冊		152	20	29	実父坂根幸悦の墓碣。海叔明撰。
50	亡妻杉氏墓碣銘并序 白鹿先生寿蔵碣銘并序	稿本	1冊		29	16	20	外題「嶺松孺人墓碣銘并序稿／白鹿翁寿蔵碣銘并序稿」。後半は，3-1-51に先立つ稿本。
51	白鹿先生寿蔵碣銘并序	稿本	1冊		172	21	33	白鹿洞主桃源蔵自撰。全11丁。寿蔵石などについてのメモ5点をはさみこむ。翻刻あり。

52	＊記白鹿先生寿蔵後	写本	1冊		88	18	24	全2丁，付箋あり。園山雄撰。翻刻あり。
53	＊雑集	写本	1冊		157	20	30	内題なし。史料名は外題による。白鹿が六十歳になったのを祝って江戸から寄せられた賀詩・賀文。詩文を寄せているのは，渋井孝徳・関脩齢・林内記・沢元愷・藤時憲・豊幹・滕娶・木徳輔・河世寧・関文裕・野元輿・滕忠寛・平井君敬・野淳泰・嵓鴻漸・滕嬰・米弘之・大場徳・杜久圭・源良翰・藍川順の21人。
54	＊白鹿先生寿詩巻	写本	1冊		111	19	27	白鹿が七十歳になったのを祝って江戸から寄せられた賀詩。詩を寄せているのは，井潜・結城晁隮・柳義篤・山尚尹・沢木愚・吉村逑彭・松崎珪・箕作義・佐坂恭・本木言純・林信敬・片瀬徳輔・浦世徳・邨山緯・山上定保・安原希曽・岡田恕・小山為滋・順雅・源忠良・岡故完の21人。末尾に孔平信敏「白鹿先生七十寿序」を付す。また，白鹿七十を賀す歌稿のメモなど3点を含む。
2 西河の著作等								
1	周礼窺	稿本	6冊	寛政11年季春卒業	48	8	77～78	『周礼』中の語を掲げ，それについての諸説を引き，ときに按語を加えた研究ノート。3-2-2『賈誼新書考証』・3-2-3『潜夫論考証』と同形式。
2	賈誼新書考証	稿本	2巻1冊		263	8	78	3-2-1『周礼窺』・3-2-3『潜夫論考証』と同形式。広瀬の学者山部良行の明治20年の後序を付す。箱入で，松江の古書肆ダルマ堂からの葉書２通（桃裕行宛，1958年）を含む。桃裕行がダルマ堂から購入したもの。箱の表書きは「西河先生手筆賈誼新書考証」。箱の横には「桃西河先生手筆書冊一巻」とあるので，もとは西河の手稿本31巻がまとまって存在していたと考えられる。
3	潜夫論考証	稿本	2巻2冊	寛政11年首夏	52	8	76	3-2-1『周礼窺』・3-2-2『賈誼新書考証』と同形式。
4	坐臥記	稿本	零本3冊	備考参照	17	16	18～19	『坐臥記』は，天明4年2月以降書き継がれた随筆。この3-2-4は，第1分冊天明4年2月～，第2分冊天明5年3月～，第3分冊寛政10年正月～で，天明7年5月～の部分と寛政2年正月～の部分を欠いている。
5	坐臥記	写本	4巻2冊	備考参照	200	7～8	75～76	この3-2-5は，第1分冊に天明5年3月～と天明7年5月～を，第2分冊に寛政2年正月～と寛政10年正月～と天明4年2月～を収める。翻刻あり。
6	坐臥記	近代活字本	1冊		290	—	—	出雲文庫第１編。明治45年発行。発行者谷口為次。
7	出雲舟人無人島漂流記	稿本	1冊		286	25	44	天明7年に漂流した雲州美保関の舟人清蔵からの聞き書き。西河は寛政10年正月に清蔵に会って漂流の様子を尋ねており，聞いた内容を『坐臥記』のうちに記しているので，この3-2-7も西河の手に成ったものと推測した。
8	御触留抜書	稿本	2冊	天明8年写	169/50	20/10	31/3	第1分冊表紙「…ヨリ享保十五年マテ五十六年ノ間／御触留抜書一／桃義三郎」（…は欠損部分），第2分冊表紙「享保十六亥年ヨリ／御触留抜書二／桃義三郎」。第1分冊第1丁オモテ「…ハ御番所ニも無之様ニ相聞候。御三代目…ヨリ御日記・御書出留とも詳有之」。第1分冊最終丁「天明八年申三月　桃義三郎写。朱錠ヲ以書込候ハ義三郎自己之覚書也」。
9	須知雑記	稿本	1冊		148	20	29	内容は次の通り。「武家諸法度」（慶長度）・「武家諸法度」（延享度）・「家中制法」（宝暦二申正月日）・「御元祖直政公自越前御出陣摂州大坂城攻御供附」・「御当家御系図」・「軍役定」・「定」・「軍役武具定」・「軍役人数定」・「婚礼定」（宝暦九卯六月十八日）・「婚礼」（明和八卯十一月廿六日）。
10	帳秘雑記	稿本	3冊	天明5年・寛政3年	211/45	23/10	39/3	第1分冊・第2分冊は天明5年，第3分冊は寛政3年。第1分冊の内容は，「安永九子年十郡小物成并大根嶋古志原小物成」以下，藩の歳入に関する文書の写し。第2分冊の内容は，「軍役定」以下，軍役や藩の歳入に関する文書の写し，第3分冊は，墨付6丁，「鞍鐙作者由来」「鞍鐙名作相伝系図」。
11	新政要記	稿本	1冊	天明7年春	136	19	28	内容は，「郷中制度」・「町家制度」・「昇格制度」・「家中制度」・「役書制度」・「道中制度」・「江戸制度」。最後の2項目は未完。表紙に「天明七丁未春考」とあり。
12	癸卯文稿	稿本	1冊	天明3年～	179	21	33	「癸卯」は天明3年を指す。ただしその後の文章も含む。内容は次の通り。「送園山淑飛之東都序」，「問喪」，「神主論学説序」，「神主論」，「学説」，「答白石寧遠」，「奉朝日相公」，「斥綦」，「富士嶽説奉朝日相公」，「山中二先生行状」。
13	西河先生詩稿	稿本	2冊	寛政元年	90	18	24～25	第2分冊末尾に，「寛政改元年夏六月満巻　桃世明君義書」とあり。

14	西河先生稿	写本	1冊		113	19	27	詩文稿。次のような一文を含む。「忠徳，初称武内氏，中称佐々木氏，又改称脇坂氏，至明和八年辛卯冬十一月十七日，所養為桃氏之子，故後皆称桃氏」。
15	東遊行装	稿本	1冊	寛政2年3月	108	2	50	1-2-3『東都祗役要記』に対応。表紙に「寛政二年戊三月／東遊行装／桃世明」とあり。
16	＊西河先生墓碑銘	写本	1冊		139	19	29	全3丁。園山雄撰。翻刻あり。
3 黄園の著作等								
1	[左伝抜書]	稿本	1冊		243	13	11	本文1丁目に「桃維忠」とあり。
2	黄園先生遺稿	稿本	1冊		191	22	36	草稿を綴じて1冊としたもの。
3	子孝先生手沢書	稿本	1冊		225	24	41	草稿を綴じて1冊としたもの。
4 翠庵の著作等								
1	詩稿律絶	稿本	1冊	文政元年～同3年季秋	185	22	35	内題「詩稿巻之下」。史料名は外題による。全15丁。3-4-2と同系統の史料。
2	拙作詩文稿	稿本	1冊	文政5年季春～文政7年季冬	173	21	33	内題なし。史料名は外題による。外題は題簽が剥落したあとに「拙作詩文稿」と手書。剥落した原題簽には「坐右録　拙作詩文　三」とあり。全16丁。3-4-1と同系統の史料。
3	陪寧我紫瀾二先生探勝地	稿本	1冊	文政7年季秋	255	24	43	全3丁。「寧我紫瀾二先生」は，田村寧我・海野紫瀾のこと。
4	坐右漫筆	稿本	1冊	弘化4年春～明治5年	218	23	40	内題なし。史料名は外題による。
5	御年譜要記	稿本	1冊	嘉永7年頃	25	10	1	内題「座右漫筆」。史料名は外題による。年譜作成のためのメモが大半を占める。
6	詩経自読	稿本	2冊	文久2年初秋起稿	44	17	21	第1分冊表紙「自周南至邶風」，第2分冊表紙「鄘風至鄭風」。明教館の罫紙を使用。
5 節山の著作等								
1	鄙稿	稿本	18巻16冊	弘化元年～明治5年	3	15	15～17	詩文稿。一～十五。ただし，一が上下に，五が五ノ乾・五ノ下・五ノ坤に分かたれているため，全18巻。また，一の上･下，五の乾･下がそれぞれ1冊となっているため，全16冊。各冊表紙には「伏乞　電矚／桃好裕首拝／鄙稿〈自弘化甲辰至嘉永庚戌〉　一上」（第1分冊，〈 〉内は割注）などとあり，本文には朱批が加えられている。朱批を加えた人物がわかるのは八のみで，表紙表題の割注に「此一巻係枕山大沼氏之雌黄」とある。
2	鄙稿	稿本	1冊		11	16	18	史料名は内題による。外題は「文稿〈此一巻係于息軒安井先生之雌黄〉」。3-5-1『鄙稿』と同系統の史料。
3	修斎叢書	稿本	17冊	備考参照	1	14	12～15	内容の細目は次の通り。「文部一」（弘化3年～）・「文部二」・「歌部」（嘉永2～6年）・「歌部」(明治5年)・「詩部三」（嘉永5年～）・「咏古詩集」(安政3年冬頃識語)・「贈寄文詩」(安政4年頃)・「韓詩外伝考」(嘉永2年識語，2冊）・「大学」（嘉永3年9月起業，同5年2月竣工）・「大学古本説」（嘉永6年識語，1冊）・「坐右漫記」・「摘語」・「皇朝纂論」(安政2年秋識語)・「読史撮要」・「日本外史」・「艮斎閑話抄」。
4	修斎漫筆	稿本	1冊	嘉永4年～	15	16	18	全7丁。1丁目は『孔子家語』の抜き書き，2丁目行以降は『孝経大義増註抄』と題された草稿。「修斎漫筆」は外題で，「孝経大義」という割注を有する。表紙に「嘉永四辛亥中元ヨリ」とあり。
5	修斎先生文稿	稿本	1冊		14	16	18	内題なし。史料名は外題による。「読神代巻記」以下，全23丁。
6	節山文集	稿本	1冊		10	15	17	表紙なし。1丁目右肩に「節山文集」とあり。「奉送　世子遊学東京序」以下，全38丁。
7	[文稿]	稿本	1冊		235	24	41	「玉造温泉記」以下，全27丁。
8	[文稿ほか]	稿本	4枚		257	24	43	節山の文稿3点。そのほか[出雲藩侍医杉貞庵碑文]（明治13年9月雨森精翁撰）の写しを含む。杉貞庵は節山の実父。
9	八陣図集説	稿本	1冊		37	17	20	内題「八編類纂」。史料名は外題による。

10	小学書輯説	稿本	1冊	嘉永7年暮春識語	129	19	28	妹尾(雨森)精斎著，桃好裕録。妹尾精斎が『小学』の欄外に書き込んだ説を桃好裕が輯録したもの。表紙裏に次のような識語あり。「此書，録精斎妹尾先生書於所蔵之小学書之欄外者，其不冒姓名者，係於先生之説也。其曰輯説，裕仮名之耳。嘉永甲寅暮春」。
11	直信流柔道開祖寺田先生行状	稿本	1冊	万延元年7月	150	20	29	翻刻あり。
12	贅言	稿本	21巻存10冊	文久2年7月～慶応2年9月	6(1)	9	—	第3・7・13・14巻欠。第5・6，10・11，15・16・17，18・19・20・21巻は，それぞれ合1冊。したがって，全21巻のうち，存17巻10冊。第1分冊を例にとると，表紙に記された原題は「改政論 愚存在之大意 一」で，付箋により「改政論」を「贅言」と改題。また表紙には，「文久二年壬戌七月録／御番頭斎藤久米殿之嘱ニ応して書す／文久三年四月 上江献ス」とあり。『贅言』は，文久2年から慶応2年にかけて桃好裕が提出した上書を集めたもの。
13	贅言	稿本	存2冊	文久2年7・8月	6(2)	9	—	3-5-12の最初の2巻に相当する清書本。なお，『贅言』について，3-5-24「修斎先生著書目録」(中川胖)は，「此書ハ先生ノ深ク秘スル所ニシテ未タ見ルコトヲ得ス」と述べている。
14	出雲私史	稿本	1冊		4	8	80	外題「出雲私史神代」。墨付11丁。
15	出雲私史	稿本	12巻9冊	文久2年自序	2	8～9	80～81	文久2年自序。のち明治4年晩春に序文の末尾に識語を加筆。版心に「明教館蔵版」とある罫紙を使用。翻刻あり。
16	藩祖御事蹟	稿本	5巻5冊	慶応3年冬識語	12	8	78～79	巻1～3・附録上下の5巻。本編末尾に桃好裕の識語あり。3-5-17の稿本。翻刻あり。
17	藩祖御事蹟	近代活字本	7巻7冊	慶応3年冬識語	270	—	—	巻1～5・附録上下の7巻。本編末尾に桃好裕の識語あり。(松江)辰巳屋忠左衛門刊，活板百部限。
18	[松平綱隆事跡]	稿本	1冊		245	13	11	桃好裕の著作か。第2代松江藩主松平綱隆の事跡を記す。朱筆の訂正多。3-5-19の綱隆の項の記述は，この3-5-18の訂正後の文章を踏まえている。
19	[歴代藩主等事跡]	稿本	1冊	明治6年以降	246	13	11	桃好裕の著作か。藩祖松平直政から最後の藩主松平定安とその弟直応にいたるまでの事跡を記した草稿。全24丁。直応の記事では明治6年の出来事に言及。綱隆の項の記述は，3-5-18の訂正後の文章を踏まえている。
20	肥後見聞録	稿本	3巻3冊	慶応元年自序	7	10	1	慶応元年に内命により肥後熊本の国政を視察した際の記録。時習館についての記述などを含む。明治元年冬広瀬藩儒山村良行跋。翻刻あり。
21	西遊雑記	稿本	1冊	慶応元年写	219	13	9	慶応元年の西遊の際に熊本藩士のもとで筆写した諸史料から成る。「庚子遊草」(永山二水)，「不尽嶽記」(松崎慊堂)，「日光従軫録」(鹽谷宕陰)，「義人纂書序」(安井息軒)，「学校問答書」(横井小楠)など。
22	為学論	稿本	1冊		13	16	18	全19丁。内容は，儒道と皇道の関係についてなどをめぐる学問論。明治初年の成立か。
23	巡郡稿	稿本	1冊	明治5年	128	11	5	外題下に次のようにあり。「巡郷校自明治五年壬申正月廿二日至二月九日／巡旧跡自六月七日至十月二十七日」。明治5年の郷校調査(1-5-14『郷校取調巡郷日記十五』参照)ののちに書かれた全13丁の紀行文。
24	＊修斎先生著書目録	写本	1冊	明治4年正月	5	15	17	外題「修斎著書目録」。全7丁。著者中川胖。明治四年正月識語。翻刻あり。
6 著者の判然としない史料								
1	共遺雑稿	稿本	1冊	天保9～12年頃	23	16	19	年代・筆跡から推すと翠庵の著作か。
2	闔策	稿本	1冊		81	17	23	『詩品』『紀事本末』『竹書紀年』の抄写本。
3	[諸書抜書]	稿本	1冊		253	24	43	筆跡から推すと白鹿の手に成ったか。
4	[諸書抜書]	稿本	1冊		177	21	33	外題「漢書漫筆」。『漢書』などからの抜き書き。筆跡から推すと翠庵の手に成ったか。
5	[諸書抜書]	稿本	1冊		233	24	41	内題「韓詩外伝五」。内容・筆跡から推すと，節山の手に成った『韓詩外伝考』の草稿か。
6	[諸書抜書]	稿本	1冊		251	24	42	5-6-5とほぼ同じ形態で筆跡も同じ。節山の手に成ったか。
7	[諸書抜書]	稿本	1冊		252	24	42	『大学』に関する説を『朱子語類』などから抄出。筆跡から推すと節山の手に成ったか。
8	[諸書抜書]	稿本	1冊		226	24	41	『太平広記』からの抜き書きか。

9	[松江藩に関係する書物からの抜書]	稿本	1冊		228	13	11	題簽剥離。『雲陽大数録』などからの抜き書き。
10	[出雲国の地誌の抜書]	稿本	1冊		241	24	42	
7 桃家の記録等								
1	桃氏要録并列士録	稿本	1冊	文化6年正月以降	224	2	50	文化6年正月2日の記事まで。
2	列士録	稿本	2冊	安政3年12月以降	36	17	20	第1分冊表紙～落丁あり。存するのは『列士録』の桃家の項の明和5年～安政3年の部分。
3	＊[官員出張旅費規則]	写本	1冊	明治5年正月14日	101	19	26	3-7-4と関係があると見てここに配列した。版心に「松江県」とある用紙を使用。
4	覚	稿本	1通		258	24	43	桃好裕らの出張旅費請取の覚。版心に「島根県」とある用紙を使用。
5	家塾開業願	稿本	1冊	明治7年	236	24	41	家塾明教館開業願。明治7年5月14日桃好裕願（島根県権令井関盛良宛），18日聞届，22日開塾。3-7-6･7は同種の史料。
6	家禄奉還願	稿本	1冊	明治7年	237	24	42	明治7年1月27日桃好裕願（島根県権令井関盛良宛）。明治7年6月27日聞届。3-7-5･7は同種の史料。
7	学資寄附願	稿本	1冊	明治8年	238	24	42	明治8年3月14日桃好裕願（島根県令井関盛良宛）。同日聞届。家禄奉還にともない，管内の小学校のための献米を金納とすることの願い。3-7-5･6は同種の史料。翻刻あり。
8	桃家蔵書目録(写本)	稿本	1冊	大正2年12月	0	10	1	外題「大正二年十二月／桃家蔵書／写本之部」。
9	大正七年九月七日松平家へ用達書類	稿本	用箋2枚	大正7年	231	24	41	大正7年9月7日に松平家に貸し出した書籍・書類の一覧。
8 書簡等								
1	[桃源蔵宛後藤弥兵衛書状]		1通	[申]6月12日	304(1)	25	45	包紙に「申七月廿六日達」とあり。
2	[田村寧我宛桃世文書状]		1通	?年3月8日	304(2)	25	45	
3	[桃氏宛書状]		1通	?年12月2日	304(3)	25	45	
4	[書状]		1通	?年3月8日	304(4)	25	45	端裏書「寮長」。寮中規則厳格化の願い。ただしこの書状中で言及されている別紙（寮中規則の改正案）は所在不明。
5	[書状]		1通	?	304(5)	25	45	宛先・差出人・年次等不明。書き出しは「大原郡郷校岡村加茂町両所ニ有之」云々。
6	[桃敏行宛「不昧侯遺品展覧会」案内状]		1通	大正6年9月･10月	306(1)	25	45	大正6年10月20日から3日間，不昧同好会の主催で三越呉服店において開催された「松平不昧公百年忌辰紀念不昧公遺品展覧会」の出品案内（大正6年9月付）・開催案内（大正6年10月付）など合計4点同封。
7	不昧侯遺品展覧会出品目録		1枚	大正6年10月	306(2)	25	45	上記の展覧会の出品目録。
8	不昧侯遺品展覧会特別室陳列品目録		1枚	大正6年10月	306(3)	25	45	上記の展覧会の特別室陳列品（伯爵松平直亮出品）の目録。
9	[桃敏行宛田村稔夫書状]		1通	大正14年12月6日	306(4)	25	45	田村稔夫は島根県松江市母衣尋常・高等小学校学校長。文中で「節山先生追遠祭」に言及。
10	[桃敏行宛村上寿夫書状]		1通	大正14年11月22日	306(5)	25	45	村上寿夫は松平家家人。この書状は印刷されており，「真寿様御誕生」のお祝いに対する礼状として一斉に発送されたもの。
11	[桃敏行宛宮田権之丞書状]		1通	?年5月18日	306(6)	25	45	年不明。封筒欠。
12	[桃源蔵文稿]		1枚		306(7)	25	45	自筆かどうか不明。
13	[桃好裕草稿等]		1袋		305	—	—	雑多な史料を含む。
14	記若狭綱子事		1枚		304(6)	25	45	末尾に「小邨新稽首／伏乞／斧正」とあり。小邨新が桃家の学者に添削を乞うた文稿。

整理番号	史料名	巻冊	著者	年代	史料番号	フィルム番号	紙焼製本番号	備考
4 維新後の松江藩・松江県・島根県の学制改革関係史料等								
1 維新後の学制関係史料(松江藩以外)								
1	皇学所規則	1冊			102	19	26	内題なし。史料名は外題による。全12丁。
2	西京大学校次第	2冊			232	24	41	同内容の写本2冊。1冊は全2丁，もう1冊は全3丁。
3	明治二己巳九月集議院日誌写	1冊		明治2年写	146	19	29	全14丁。書き出し「皇漢学合併被　仰出候ニ付テハ」云々。
4	大学校則写	1冊			123	19	28	史料名は外題による。全23丁。
5	中小学規則	1冊	東京府中学	明治3年写？	98	18	25	史料名は外題による。全28丁。松江藩学校懸の罫紙を使用。内容は，「中学定規」(東京府中学)・「中学規則」・「小学規則」(庚午六月日)・「校中定規」(庚午六月日)。庚午は明治3年。
6	紀州若山(ママ)藩学則写	1冊		明治4年写	118	19	27	史料名は外題による。表紙には「明治四未年四月廿日姫路藩来人尓拵候分／紀州若山藩学則写」とあり。内容は，「紀州若山藩学則掲示」(明治3年)・「若山藩管内布告之写」・「別冊ノ写 兵賦略則」からなる。
2 明治4年の松江藩(→7月14日松江県→11月15日島根県)の学制改革に関係する史料等								
1	学制改革告示	1冊			93	18	25	「学制改革告示」・「学制論」・「学則并序」からなる。松江藩学校懸の罫紙を使用。
2	[松江藩]学則	1冊	松江藩	明治4年辛未5月	116	19	27	外題「元松江県学則」。修道館設置の趣旨を述べる前半(表題「学則」)と，修道館の学則を規定する後半(表題「学則」)とからなる。松江県の罫紙を使用。【注１】参照。
3	教導所学則	1冊	松江県(ママ)	明治4年辛未5月	155(1)	20	29	教導所設置の趣旨を述べる前半(表題「教導所学則」)と，教導所の学則を規定する後半(表題「教導所学則」，ただし「教導所」の3字を朱で抹消)とからなる。松江藩学校懸の罫紙を使用。【注２】参照。
4	教導所学則	1冊			155(2)	20	29	4-2-3の後半部分とほぼ同文。表題の「教導所」の3文字を朱で抹消。松江藩学校懸の罫紙を使用。
5	教導所学則	1冊			124	19	28	4-2-3の後半部分の稿本。史料名は最初「郡市学則」。その後，「郡市」の2字を墨で抹消し「教導所」と傍書，さらにこの「教導所」の3文字を朱で抹消。松江藩学校懸の罫紙を使用。
6	教導所学則表	1枚			259(1)	24	43	【注３】参照。
7	女学則	1冊	松江県	明治4年辛未10月	125(1)	19	28	女学設置の趣旨を述べる前半(表題「女学則」)と，女学の学則を規定する後半(表題「女学則」，ただし「女」の1字を朱で抹消)とからなる。松江藩学校懸の罫紙を使用。【注４】参照。
8	女学則	1冊			125(2)	19	28	4-2-7の後半部分の稿本。松江藩学校懸の罫紙を使用。
9	女学則表	1枚			259(2)	24	43	【注５】参照。
3 学制公布(明治5年8月5日)以後の島根県の学制改革に関係する史料等								
1	[学制・小学教則の写し]	1冊			201	23	38	松江県の罫紙を使用。
2	小学規則	1冊	文部省	明治5年壬申7月	297	25	45	版心に「島根県」とある用紙に木版印刷。
3	県下区割帳　地理取調	1冊			183	21	34	一部松江県の罫紙を使用。
4	第一大区神社				112	19	27	第一大区の神社の由来を記す。区割の調査と関連した史料か。
5	各校機(ママ)則　第十九中学区	1冊			100	18	26	第十九中学区内の小学校の規則集。全103丁。各小学校から提出された規則の写しをそのまま仮綴にしたもの。
6	規則	1冊		戊[明治7年]6月	256	24	43	版心に「母里」とある罫紙を使用。
7	掟則	1冊			126	19	28	
8	教員心得・級長心得	1冊			99	18	25	冒頭に次のようにあり。「文部省正定ノ小学教師心得ヲ熟読シテ遵守スヘキハ勿論ナレトモ，尚当校丈ニテ可心得条件アリ。左ノ如シ」。
9	下等小学教則ノ書類	1枚			259(3)	24	43	
10	下等小学試験法	1枚			259(4)	24	43	
11	[各校教師名一覧]	1枚			259(5)	24	43	

12	下等小学教授法・四種活用授業法	1冊			298	25	45	版心に「島根県」とある用紙に木版印刷。前者7丁，後者8丁。
4その他								
1	啓蒙社大意	1冊		明治4年辛未正月	9	15	17	
2	[共義舎設立之義草稿]	1冊			249	24	42	版心に「島根県」とある用紙を使用。

【注１】4-2-2は，島根県教育庁総務課島根県近代教育史編さん事務局編『島根県近代教育史』第3巻「資料」（島根県教育委員会発行，1978年）所収。明治4年の「(5)松江藩学則改定のこと」がこれにあたる。同書所掲の史料では，「明治四年辛未五月四日学制ヲ改メ学則ヲ設クル左ノ如シ」の一文のあとに4-2-2を掲げる。

【注２】4-2-3は，前掲『島根県近代教育史』第3巻所収。明治4年の「(6)松江藩教導所学則制定のこと」がこれにあたる。同書所掲の史料では，次の一節のあとに4-2-3を掲げる。
「明治四年辛未五月四日，管内処々ニ設クル所ノ郷校及ヒ従来寺小屋ト称スル者，悉ク改メテ教導所ト名ツケ，学則ヲ定メ，教導所取締ヲ置キ，郡吏ヲシテ教導所懸引ヲ兼務セシム。且毎郡一所宛ノ教導所ヲ以テ其長トシ，合セテ之ヲ修道館ニ管轄ス〈松江市中ノ教導所ハ直チニ本館ニ総フ〉。因テ前後設クル所ノ教導所百九十余所アリ〈教導所都テ私立ニ係ル。独従前郷校若干ノ教官ハ其月給官費ヲ以テ之ヲ給ス〉」（句読点は引用者による。〈〉内は割注）。

【注３】4-2-6は，前出「(6)松江藩教導所学則制定のこと」の一部として前掲『島根県近代教育史』第3巻所収。

【注４】4-2-7は，前掲『島根県近代教育史』第3巻所収。明治4年の「(7)松江県女学則制定のこと」がこれにあたる。同書所掲の史料では，「明治四年辛未十月五日女児ノ学則ヲ定ム」の一文のあとに4-2-7を掲げる。

【注５】4-2-9は，前出「(7)松江県女学則制定のこと」の一部として前掲『島根県近代教育史』第3巻所収。

【補注】前掲『島根県近代教育史』第3巻は，「(3)松江藩修道館書生寮規則制定のこと」という史料を収め，「桃裕行氏蔵」とするが，現在この史料は「桃家資料」には含まれていないようである。

整理番号	史料名	巻冊	著者	史料番号	フィルム番号	紙焼製本番号	備考
5 桃家旧蔵書							
1 松江藩と関係の深い史料							
1	越家老翁物語	写本1冊		159	20	30	「越家老翁」は，越前家松平氏の祖結城秀康（徳川家康の次男，松江藩祖松平直政の父）のこと。
2	出雲高真公大坂御陣御供帳	写本1冊		96	11	4	外題「大坂御陣御供帳之写」。
3	明和三戌八月治郷公御初入之節宗衍公より諫書写	写本1冊	松平宗衍	153	12	7	外題「宗衍公諫書写」。
4	晏子春秋	近世活字本1冊		273	—	—	外題「松江藩木活字晏子春秋零本」。「諫上第一」「諫下第二」のみ。序文と本文の一部は手書き。会読用のテキストとして印刷されたものか？
5	秘書	写本1冊		137	19	28	著者不明の上書。「寛政十年二月三日夜上ル」。
6	上書写	写本3冊	原胤富ほか	190	22	36	原民右衛門胤富らの上書の写し。文久元～3年。
7	内用留	写本1冊	原胤富	109	11	4	原民右衛門胤富の内用留。
8	円外一川君伝	写本1冊		133	19	28	文中に「桃源蔵曰…」とあり。桃家の学者の著作か？
9	[村上喜一郎行状]	写本1冊		227	13	11	村上喜一郎舎喜(イエヨシ)の行状。村上は泉府方趣向人。桃家の学者の著作か？
10	記森金吾事	写本1冊	[園山西山]	187	22	35	佐野正巳『松江藩学芸史の研究』（明治書院，1981年）442頁は園山西山の著作であるとする。
11	子朗先生法帖	写本1冊	田村寧我	33	16	20	子朗先生は田村寧我。裏表紙に「主人 桃世文」とあり。
12	瑞光山清水寺記録写	写本1冊		53	17	22	史料名は外題による。「清水寺略縁起」ほか。
13	遊清水寺記	写本1冊	山本彝之	234	24	41	全2丁。
14	鐘記	写本1冊		240	24	42	瑞塔山雲樹寺の高麗梵鐘の「記」。桃家の学者の著作か？
15	[詩稿]	写本1冊		230	24	41	冒頭の付箋に次のようにあり。「余大山ヲ出テ松林寺ニ寓ルコト自丙申六月至丁酉六月凡二年、同月復夕松林寺ヲ出テ今マ鰐淵山ニ住、故ニ有其意趣」。
16	職制改正之弁	写本1冊		28	16	20	全21丁。「ベシノ字除イテ可ナリ」など，本文についての意見を朱で述べた付箋が多数貼付されている。この付箋は桃好裕によるものか。なお，桃好裕は，明治2年2月に職制改正御用懸に任ぜられている。
17	松江藩治職制	写本1冊		242	24	42	全13丁。
18	地名箋	写本1冊		171	21	32	表紙に「地名箋／書学所」とあり。書学所で用いられた往来物か？ 山城国以下，国ごとに地名を列挙。府・県・藩・郡ごとに地名を挙げているので，維新後・廃藩前の史料。
19	地理自通	写本1冊		239	24	42	全6丁。版心に「伝習校」とある用紙を使用。「地理ヲ知ラント欲セハ先ツ我々カ居住スル出雲国ヨリ始ムヘシ」云々。
20	当国ニ関係旧録由来之届	写本1冊		244	24	42	明治6年1月届。常栄寺住職勝部大謙作成。全4丁。
21	系図書出	1冊		180	12	7	松田勝介系図書出。明治6年1月27日付，島根県参事兵頭正懿宛。全13丁。
22	島根県官員録	近代活字本1冊		296	25	45	明治8年。
23	松平不昧伝	近代活字本3冊		291	—	—	松平家編集部（代表者高橋龍雄）著，箒文社発行。大正6年4月24日刊。松平直亮の松方正義宛書簡を含む。
24	出雲金石文集	写本1冊		293	25	45	信太英（淞北）編，明治26年自序。松平伯爵家所蔵本を昭和3年12月に岡田伝市が筆写した写本。島根県文献叢書刊行会の原稿用紙を使用。
25	江戸時代来聘朝鮮信使迎接応対唱和筆語図書展観目録[コピー]	1部	中山久四郎	300	—	—	1933年11月。桃家所蔵『白鹿先生韓人応対詩』への言及を含む。
26	江戸時代来聘朝鮮信使迎接応対筆語唱和図書目録[コピー]	1部	中山久四郎	301	—	—	小田先生頌寿記念会編『小田先生頌寿記念朝鮮論集』（大阪屋号書店，1934年）所収の中山久四郎「江戸時代来聘朝鮮信使迎接応対筆語唱和図書目録」のコピー。5-1-25を論文化したもの。同じく桃家所蔵『白鹿先生韓人応対詩』への言及を含む。

27	和漢唱酬における雲藩儒者の活躍：長沢二子（東海・楽浪）と桃白鹿	1部	佐野正巳	302	—	—	神奈川大学人文学会『人文学研究所報』第13号抜刷。
28	[須藤柳圃関係史料]	1袋		303	—	—	人見伝蔵「須藤柳圃伝」草稿など。

2 写本

1	論語筆解	1冊	唐・韓愈	21	16	19	抄写本。
2	読書管見	零本1冊	元・王充耘	38	17	21	下巻のみ。
3	[霊台図など]	1冊		223	24	40	
4	勢語臆断	1冊	契沖	217	23	40	抄写本。第10～12段の部分のみ。
5	[兼日題併唐話]	1冊		168	20	31	外題「享保九甲辰歳正月二十二日兼日題併唐話」。実際は，正月22日だけでなく，2月2日・2月12日・2月22日・閏4月2日・閏4月12日・閏4月22日・5月12日・5月22日の記録も含む。漢詩・唐話の会の記録。
6	文罫	1冊	荻生徂徠	197	23	38	
7	祠堂式及通礼微考	1冊	荻生徂徠	127	19	28	
8	[明律国字解]	4冊	荻生徂徠	40/170	17/21	21/32	第1分冊・第2分冊内題「問刑条例名例律国字解」，第3分冊内題「問刑条例戸律国字解」，第4分冊内題「問刑条例兵律国字解」。
9	文章十訣	1冊	水足博泉	208	23	39	
10	文章三要	1冊		207	23	39	全5丁。
11	太宰徳夫赤穂四十六士論評	1冊	赤松滄洲	156	20	29	「安政五年歳在戊午季夏十日」。表紙に「中村吉卿謄写見恵／実大屁也〈裕案屁恐庇誤〉」（〈〉内割注）とあり。
12	[『三国通覧図説』地図]	4枚	林子平	299	—	—	「三国通覧」・「朝鮮」・「琉球」・「蝦夷」。
13	大学雑議	1冊	[中井履軒]	121	19	28	
14	松平越中守様御心書	1冊	松平定信	47	17	22	表紙に「桃義三郎家蔵」とあり。全5丁。
15	松平越中守殿ニテ養父杢頭殿一周忌ノ節家中ノ者へ申渡候書付	1冊	松平定信	167	20	31	全11丁。
16	[播州足軽善九郎之事]	零本1冊		294	—	—	
17	御遺状御宝蔵入百ヶ条	1冊		199	23	38	表紙には「東照宮御遺状百箇条／嘉永七年甲寅孟冬六日写」とあり。
18	大学一家私言	1冊	佐藤一斎	122	19	28	
19	大学摘説	1冊	佐藤一斎	203	23	39	
20	論語欄外書	2冊	佐藤一斎	184	22	35	
21	孟子欄外書	2冊	佐藤一斎	193	22	38	上冊裏表紙に「嘉永甲寅初秋写于東邸之寓舎」，下冊裏表紙に「嘉永七年孟秋在于東邸写／桃好裕」とあり。5-2-18～23は一連の写本。
22	周易欄外書	1冊	佐藤一斎	103	19	26	
23	易学啓蒙欄外書	1冊	佐藤一斎	189	22	35	
24	白鹿洞書院掲示	1冊	山崎闇斎集註 佐藤一斎問	92	18	25	
25	山口栞	零本1冊	東条義門	85	18	24	下巻のみ。
26	大統歌	1冊	塩谷宕陰	120	19	27	
27	上書集	1冊		162	20	30	佐藤一斎「海防策」ほか，海防に関わる諸家の上書を集めた写本。
28	聖堂祭式	1冊		221	24	40	
29	畸人十篇	2冊	利瑪竇	182	21	34	
30	悔改信邪蘇説略・張遠両友相論	1冊		83	18	23	前者の奥付の写し「耶蘇降世一千八百六十年歳次庚申／培端氏著／聖経書房重刊」，後者の奥付の写し「耶蘇降世一千八百六十一年歳次辛酉／上海美華書館重刊」。
31	三要録	1冊	丁韙良	206	23	39	

32	提綱荅古知幾	零本1冊		80	17	22	
33	治験病名抄	1冊	中林武彦	176	21	33	冒頭の自序の末尾には次のようにあり。「嘉永二年己酉秋九月伯州処士中林武彦子温父援筆於米城読書樓」。
34	十四経穴歌	1冊		222	24	40	
35	日撰抜萃	1冊		39	17	21	
36	梵字	1冊		188	22	35	全5丁。
37	[漢字辞典]	零本19冊		295	—	—	同訓異義字典。訓の五十音順で配列。「天」(アメ)から始まって「ホ」まで。桃東園が著したという『異字同訓』30巻と何らかの関係があるか。

3 版本

1	皇明通紀統宗	13巻12冊	明・陳建	292	—	—	「(新鍥李卓吾先生増補批点)皇明(正続合併)通紀統宗」。元禄9年12月(京都)林九兵衛刊。首巻末尾と第12巻末尾の2ヶ所に桃源蔵の識語がある。後者には次のようにある。「右皇明通紀壹部十二巻敢助松江天倫寺八世元淞禅師之志購以為天倫寺之蔵／寛政二年庚戌秋九月／白鹿桃源蔵子深甫謹識」。なお，3-1-19，3-1-23，5-3-5参照。
2	白鹿洞書院掲示考証	1冊	浅見絅斎	285	—	—	享保16年季夏(京都)風月荘左衛門刊。
3	唐詩品彙	8巻2冊	明・高棅編	262	—	—	享保18年8月(江戸)須原屋新兵衛刊。『唐詩品彙』巻38～45。
4	無隠禅師無孔笛	6巻3冊	無隠道費	283	—	—	延享元年季夏(京都)梅村弥右衛門・(京都)田中甚兵衛・(江戸)梅村弥市郎・(大坂)大野木市兵衛刊。
5	荀子全書	20巻10冊	唐・楊倞註	280	—	—	延享2年6月(京都)葛西市郎兵衛刊(後印本)。奥付枠外に次のような桃源蔵の識語あり。「荀子全書壹部拾冊与拙著荀子遺秉同謹蔵於天倫寺／寛政庚申夏六月明教館教授桃源蔵」。なお，3-1-19，3-1-23，5-3-1参照。
6	金龍尺牘集	2巻2冊	無隠道費	276	—	—	寛延3年仲冬自序。(京都)堺屋仁兵衛・(京都)堺屋儀兵衛刊。
7	絶句解	3巻1冊	荻生徂徠	288	—	—	宝暦13年仲秋(京都)谷村豊左衛門・(京都)梅村三郎兵衛・(大坂)大野木市兵衛・(江戸)松本新六・(江戸)松本善兵衛刊。
8	絶句解拾遺考証	4巻3冊	宇佐美灊水	260	—	—	明和7年(江戸)村田小兵衛・(江戸)松本善兵衛刊。
9	南郭絶句集	1冊	服部南郭	261	—	—	安永3年(江戸)小林新兵衛刊。
10	問学挙用	1冊	皆川淇園	287	—	—	安永3年仲冬(京都)河南四郎右衛門・(京都)林伊兵衛刊。
11	潜夫論	10巻5冊	漢・王符	267	—	—	天明7年9月(京都)風月荘左衛門・(江戸)前川六左衛門・(江戸)平瀬新右衛門・(江戸)柳生助七・(大坂)梁瀬伝兵衛・(大坂)柳原喜兵衛・(大坂)泉本八兵衛・(大坂)田原平兵衛刊。
12	補修史通点煩	1冊	猪飼敬所	284	—	—	享和3年10月(京都)林伊兵衛・(京都)葛西市郎兵衛刊。
13	白鹿洞書院掲示問	2巻2冊	佐藤一斎	271	—	—	文政6年9月刊（書肆名なし）。朱熹『白鹿洞書院掲示』・佐藤一斎『白鹿洞書院掲示問』の2巻2冊。

4 近代活字本

1	聖経類書	2巻1冊		289	—	—	
2	御諡号年号読例	1冊	松浦詮編	279	—	—	明治26年刊。青山堂書房。
3	異字同訓弁	零本1冊	吉村彰編	282	—	—	明治28年編者識語。
4	芝山先生遺稿	2巻2冊	後藤芝山	281	—	—	明治41年刊。香川県教育会高松支部編輯発行。

【附表①】桃家歴代一覧

		生没年月日	享年	幼名／通称 ＊太字は『列士録』で立項されている名	名	字	号	養子関係・姻戚関係など
初代	白鹿	享保7～享和元 1722.11.至日～1801.8.19	80	友之助・硯次郎／大蔵・題蔵・**源蔵**	生盛・盛	茂功，のち子深	百川，のち白鹿	石見の医者坂根幸悦(方寿)の長男。 桃東園（1687.10.10～1760.12.28，名は道隆，字は仲長）の養子となる。 東園は，江戸の人で，大口屋全生（俳号暁雨，のち暁翁）の弟。 杉氏の娘お縫（1740～1796.8.4）を娶る。
二代	西河	寛延元～文化7 1748.11.28～1810.8.19	63	鉄弥／**義三郎**	世明・忠徳	君義	鰐尾・孟津・西河	3-2-14「西河先生稿」中に，「忠徳，初称武内氏，中称佐々木氏，又改称脇坂氏，至明和八年辛卯冬十一月十七日，所養為桃氏之子，故後皆称桃氏」とあり。したがって，この目録中に白鹿の著作の筆写者として名前の見える「武忠徳」「佐忠徳」とは西河のこと。桃家の養子となる前，脇坂家では，脇坂十郎兵衛の甥，脇坂小扇の三男。 堀江氏の娘お円（のちお律，1765～1847.12.4）を娶る(1777.12.18)。
三代	黄園	安永8～文化14 1779.10.4～1817.2.24	39	孝太郎／**大蔵**・源蔵	維忠	子孝	黄園	早苗氏の娘お村（1791～1849.12.25）を娶る(1804.12.25)。
四代	翠庵	文化3～明治8 1806.7.2～1875.4.7	70	文之助／大蔵・**題蔵**	世文	君章	北湖・翠庵・珠顆園・鳶巣	坂根太曄の二男。 黄園の娘お睦（のちお八重，1815.5.20～1830.5.5）と結婚(1828.11.26)。 市川氏の娘お公（？～1845.12.26）を娶る(1834.2.28)。
五代	節山	天保3～明治8 1832.11.30～1875.11.13	44	勝蔵／硯七・**文之助**	好裕	君綽	修斎・節山	杉貞庵の次男。 酒井氏の娘ひゃく（1830.10.9～1885.12.7)を娶る(1858.6.11)。

坂根幸悦については，3-1-48所収「覚夢居士祭文」(桃源蔵)・3-1-49「覚夢居士墓碣」(海叔明)参照。
桃東園については，3-1-47「先府君行状」(桃源蔵)・「桃東園墓碣銘」(後藤芝山，「島根儒林碑伝集」所収）参照。
桃白鹿の妻杉氏については，3-1-50所収「亡妻杉氏墓碣銘并序」(桃源蔵)参照。
桃白鹿については，3-1-51「白鹿先生寿蔵碣銘并序」(桃源蔵，「島根儒林碑伝集」・「碑銘」所収)・3-1-52「記白鹿先生寿蔵後」(園山雄，同前)参照。
桃西河については，3-2-16「西河桃先生墓碑名」(園山雄，「島根儒林碑伝集」・「碑銘」所収)参照。
桃黄園について，「黄園桃先生之墓」（園山雄，「島根儒林碑伝集」・「碑銘」所収）参照。
杉貞庵については，3-5-8所収[出雲藩侍医杉貞庵碑文](雨森精翁，「碑銘」所収)参照。
桃節山については，「桃節山先生之碑」(雨森精翁，「島根儒林碑伝集」・「碑銘」所収）参照。
園山雄については，「文恭園先生碑」（田村寧我，「島根儒林碑伝集」・「碑銘」所収）参照。
(注)「島根儒林碑伝集」：谷口為次『島根儒林伝』（谷口廻瀾先生還暦記念刊行会，1940年，復刻版は，飯塚書房，1977年）所載
「碑銘」：上野富太郎・野津静一郎編『松江市誌』（松江市発行，1941年，復刻版は，名著出版，1973年）所載

【附表②】「桃家資料」翻刻一覧

整理番号			史料名	著者	翻刻書誌情報
1	1	1	要記第壹	桃源蔵	磯辺武雄「新史料・松江藩儒桃白鹿「要記第壹」について：解題と全文史料」，『教育学雑誌』第28号，日本大学教育学会，1994年。
1	1	5	公記	桃源蔵	磯辺武雄「松江藩儒桃白鹿「公記第二」について：解題・本文史料」，『教育学論叢』第14号，国士舘大学教育学会，1996年。
1	1	6	要記	桃源蔵	磯辺武雄「松江藩儒桃白鹿『要記第三』について：解題・本文史料」，『国士舘大学文学部人文学会紀要』第29号，国士舘大学文学部人文学会，1996年。
1	1	8	要記	桃源蔵	磯辺武雄「松江藩儒桃白鹿『要記 自安永三年午正月至明年未閏十二月』について：解題・本文史料」，『教育学論叢』第15号，国士舘大学教育学会，1997年。
1	2	1	負笈日歴	桃義三郎	佐野正巳『松江藩学芸史の研究』，明治書院，1981年，377～386頁。
1	2	3	東都祇役要記	桃義三郎	前掲『松江藩学芸史の研究』，386～404頁。
1	5	1	公私要記一	桃文之助	磯辺武雄『旧松江藩儒桃節山日記公私要記一』，北樹出版，2001年。影印も含む。
1	5	2	公私要記二	桃文之助	磯辺武雄「松江藩儒桃節山『公私要記二』について：解題・本文史料」(1)(2)(3)(4)，『教育学論叢』第20・21・23・24号，国士舘大学教育学会，2002・2003・2005・2006年。
1	5	3	公私要記三	桃文之助	磯辺武雄「松江藩儒桃節山『公私要記三』について：解題・本文史料」(1)(2)(3)，『教育学論叢』第25・26・27号，国士舘大学教育学会，2008・2009・2010年。
1	5	8	西遊日記	桃文之助	『日本庶民生活史料集成』第20巻，三一書房，1972年。
					桃節山著・桃裕行編『桃節山歿後百年記念 西遊日記・肥後見聞録』，1976年，桃裕行発行。
1	5	11	公私要記十一	桃文之助	磯辺武雄「松江藩儒桃節山『公私要記十一』について」(前)(後)，『教育学論叢』第12・13号，国士舘大学教育学会，2004・2005年。
1	5	12	京役日記十三	桃文之助	磯辺武雄『松江藩儒桃文之助「京役日記」について：解題・影印史料・解読文』，敬文堂，1997年，平成8年度文部省科学研究費補助金〈基盤研究C〉研究成果報告書（研究課題番号06610254）。
1	5	14	郷校取調巡郷日記十五	桃文之助	島根県教育庁総務課島根県近代教育史編さん事務局編『島根県近代教育史』第7巻「資料」，島根県教育委員会発行，1979年。
					磯辺武雄「松江藩の郷校について：新史料「郷学取調巡郷日記十五」(桃文之助)を中心として」，『国士舘大学文学部人文学会紀要』第20号，国士舘大学文学部人文学会，1988年。
					磯辺武雄編『郷校取調巡郷日記十五・第十九中学区巡回日記』，巌南堂書店，1989年。
1	5	15	第十九中学区巡回日記	桃文之助	磯辺武雄編『郷校取調巡郷日記十五・第十九中学区巡回日記』，巌南堂書店，1989年。
1	6	10	儒学校日記		磯辺武雄「新史料「儒学校日記」(桃節山)について」，『国士舘大学文学部人文学会紀要』別冊第2号，国士舘大学文学部人文学会，1990年。
1	6	11	日誌 皇漢学校		磯辺武雄「新史料・松江藩儒桃節山『日誌』について」(上)(下)，『教育学論叢』第18・19号，国士舘大学教育学会，2000・2001年。
1	6	12	日誌 南学		磯辺武雄「新史料・松江藩儒桃節山『日誌(南学)』について」，『国士舘大学文学部人文学会紀要』第26号，国士舘大学文学部人文学会，1993年。
3	1	45	故国相朝日夫子紀功碑	桃源蔵	「碑銘」。
3	1	47	先府君行状	桃源蔵	前掲『松江藩学芸史の研究』，223～225頁。
3	1	51	白鹿先生寿蔵碣銘并序	桃源蔵	前掲『松江藩学芸史の研究』，374頁。ただし影印。
					「島根儒林碑伝集」・「碑銘」。
3	1	52	＊記白鹿先生寿蔵後	園山雄	「島根儒林碑伝集」・「碑銘」。
3	2	5	坐臥記	桃義三郎	桃義三郎『坐臥記』（出雲文庫第1編），発行者谷口為次，発売所(松江)文明堂，1912年。
					森銑三・北川博邦編『続日本随筆大成』第1巻，吉川弘文館，1979年。
3	2	16	＊西河先生墓碑銘	園山雄	「島根儒林碑伝集」・「碑銘」。
3	5	11	直信流柔道開祖寺田先生行状	桃文之助	「碑銘」。
3	5	15	出雲私史	桃文之助	桃好裕『出雲私史』，(松江)博広社出版部，1892年，和装本3冊。
					桃節山著・谷口為次編『和訳出雲私史』(出雲文庫第3編)，発行者秦慶之助，発売所(松江)松陽新報社・(松江)文明堂，1914年。
					桃好裕未定稿・谷口為次和訳『和訳出雲私史』，島根郷土資料刊行会，1971年，前掲出雲文庫第3編の複製。
3	5	16	藩祖御事蹟	桃文之助	桃好裕『藩祖御事蹟』，(松江)辰巳屋忠左衛門，刊年不明。
					桃節山著・谷口為次編『松江藩祖松平直政公事蹟』(出雲文庫第4編)，発行者秦慶之助，発売所(松江)松陽新報社・(松江)文明堂，1916年。
3	5	20	肥後見聞録	桃文之助	前掲『日本庶民生活史料集成』第20巻。
					前掲『桃節山歿後百年記念 西遊日記・肥後見聞録』。
3	5	24	＊修斎先生著書目録	中川胖	前掲『松江藩学芸史の研究』，561～563頁。
3	7	7	学資寄附願	桃好裕	谷口為次『島根儒林伝』，谷口廻瀾先生還暦記念刊行会，1940年（復刻版は，飯塚書房，1977年），153～154頁。

(注)「島根儒林碑伝集」：谷口為次『島根儒林伝』（谷口廻瀾先生還暦記念刊行会，1940年，復刻版は，飯塚書房，1977年）所載
「碑銘」：上野富太郎・野津静一郎編『松江市誌』（松江市，1941年，復刻版は，名著出版，1973年）所載